

# Motto! Shimamoto!

平成27年12月11日発行

島本町小中一貫教育推進協議会 事務局 第2号

## ◆小中合同授業研究会が行われました

11月19日、島本町小中合同授業研究会が行われ、英語科（外国語活動）（四小）、理科（二中）、音楽科（四小）の三分科会で公開授業・研究協議が実施されました。研究会当日の様子を報告いたします。



### 【英語科（外国語活動）】

【授業者】服部 行男（四小）安田 由紀子（一中）

【指導助言】大阪樟蔭女子大学教授 菅 正隆 氏

#### 【研究授業】

「英語でできるもっと楽しいことを！」を意識しながら、Hi, friends2 Lesson5 “Let’s go to Italy おすすめの国を紹介しよう”を実施した。

授業に必要な単語やセンテンスは導入でチャンツをつかって復習し、6つの国別グループに分かれ各国のブースを作った。子どもたちは「Welcome to 国名 group」と言い、事前に調べ学習をしていた自分の担当の国の食べ物やお土産、有名な場所などの写真を見せながら紹介をしていた。

時間をきりながら、発表者と聞き手に分かれ、各グループで一斉にそれぞれの国についてやり取りをする活動が30分。服部先生はわからないから不安を感じる人が多い英語であるからこそ、クラスの安心安全を心がけ、朝のペアトークを英語に変えてアクティブリスニングの練習をしたり日常に英語をとりいれたりすることを意識されていたようだった。その成果もあってか子どもたちは、笑顔で積極的に活動していた。

#### 【研究協議】

英語を話せるようになるには、英語を聞く練習しないといけない。子どもたちに英語を言わせたかったら聞かせないとダメ。「まず聞く、そして話す」である。「教師が教えようとする授業」では子どもは考えない。子どもが英語を使いたい！と思えるような授業をしていきたい。そのためには子どもの「思考する時間」を授業の中につくる必要がある。教員がハマってしまいがちなパターンプラクティスにならないよう子どもがやってみる（英語を話す）→間違える→直していく。体育の実技のような授業が良いと菅氏からお話していただいた。



## 【理科】

【授業者】小西 広哉(二中)

【指導助言】大阪大谷大学准教授 小谷 卓也氏

### 【研究授業】

中学校にて「いろいろなエネルギーの移り変わり」の単元で物体のもつエネルギーが他のエネルギーに移り変わることを実験を通して学ぶ授業を実施した。

生徒はエネルギーにはいろいろな種類があるということを事前に学んでおり、本時は電気分解、紙コップロケット、手巻き車、火起こし器という4つの実験を班ごとにまわれるブースを用意した。30分程度で4つの実験をするため、時間を切りながらであったが班員全員が積極的に参加し、工夫しながら活動していた。その後それぞれの実験が何エネルギーから何エネルギーに移り変わったのかを班で考察した。考察は理科班長が中心となり、みんなで意見を出し合い、班でまとめたものを発表した。「エネルギーとは何か」という難しい課題に対しても自分たちで言葉を補いながら表現したものを最後のまとめとした。

### 【研究協議】

授業者より、普段からみんなで意見を出し合いながら実験を考察していくことを大切にしていること、グループ学習では役割分担を決めることで話し合いが円滑にすすむよう継続的に指導してきたことが話された。指導助言の小谷氏から-アクティブラーニングに基づく理科授業の再構成とは-という質問シートが用意された。それを使用し、本時の授業における先生と生徒の対話、主体的な活動、生徒同士の協力という3つの観点から授業分析を行った。また、小学校での「エネルギー」についての既習内容の確認や「エネルギー」の定義を説明していただいた。



## 【音楽科】

【授業者】 清水 彩華(四小)

【指導助言】 大阪芸術大学教授 奥原 光 氏

### 【研究授業】

音楽科では歌唱・器楽・鑑賞・創作を分野として分けるのではなく、題材のめあてを意識して、各活動に取り組みめるよう工夫している。本授業では、「いろいろなおとをたのしもう」を題材に、トーンチャイムを用いた音楽づくりを行った。トーンチャイムの良さは、1本で1音しか鳴らない。また余韻が長く和音の重なりを感じやすいところにある。「きらきら星」を歌唱後、どんな星空かを想像しながらトーンチャイムを鳴らした。2人で合わせて音を鳴らす活動では、余韻の美しさに笑顔を増かせる子どもの様子が見てとれた。また、そのあと、数組が発表し全体でどのペアの響きが美しいかを共有し合い、子どもたちの知覚・感受を高めるよう考えた。

### 【研究協議】

授業者からの授業解説・音楽づくり体験・指導助言の3つをおこなった。感想には、「トーンチャイムの音色や使い方に触れ、1年生でも和音の響き合いを感じることができることに感心した」等があった。音楽づくり体験では、1枚の新聞紙をやぶったり、こすったりと自由に使い、グループに分かれて創作活動を体験してもらった。指導助言の奥原氏からは、「好きにやれと言われても意外とできない。好きにやるためにどんな経験をしているかが大切である。」「紙に設計された音楽に対し、同じことを再現しなければならない。楽譜を読まなければならない。…と、あまりにも楽譜にとらわれすぎると自由な発想がなくなってしまう。」そして、「音楽は『音』と『静寂』でできている。静寂の中で音楽を聴き、さまざまなことを考えるから自分なりの考えが生まれ、表現できるようになる」と助言を頂いた。

